

日韓両言語の所有表現に関する一考察

南 得 鉉

1. はじめに

所有の意味を表わす動詞として日本語では「持つ」を、韓国語では「가지다/*kacita*/」という動詞を用いる。「持つ」と「가지다/*kacita*/」の他にも存在動詞の「ある」と「있다/*issta*/」を用いて所有の意味を表わすこともできる。このような日韓両言語の所有動詞の「持つ」「가지다/*kacita*/」と存在動詞の「ある」「있다/*issta*/」の連関については、既に角田(1991), 南(2000)等の論考があるが、未だに不明な点もあるように思える。殊に「[+human]に(は)[+animate]がある／[+human]は[+animate]を持つ」と「[+human]에 게 는 /ekeynun/ [+animate]가 /ka/ 있다 /issta/／[+human]는 /nun/ [+animate]를 /lul/가지다/*kacita*/」の構文形式は、所有対象によってその使用に違いが見られ、日本語と韓国語の間にも異同が見られる。

そこで本稿では、所有を表わす日本語の「持つ」「ある」と韓国語の「가지다/*kacita*/」「있다/*issta*/」の意味用法を、[+human]の所有主体が[+animate]である所有対象を所有する場合に重点を置いて考察を行なう。そうすることで、所有の意味を持つ存在動詞「ある」と「있다/*issta*/」及び所有動詞「持つ」と「가지다/*kacita*/」の違いを明確にすることができ、外国語としての日本語と韓国語の学習にも貢献できると考える。

本稿で用いる資料は文学作品と作例による。資料が文法的に適切でないと判断される場合は文頭に「*」記号を施し、適切でないとは言いがくいが、不自然であると判断される場合は文頭に「?」記号を施すことにする。また韓国語のローマ字転写は、「The Yale System of Romanization」(Martin, S.E.)に従うものとする。

2. 「ある」と「持つ」

2. 1 所有対象が[−animate]である場合

所有動詞「持つ」は、基本的に[−animate]の所有の意味を持つ。また以下の例からわかるように存在動詞「ある」も[−animate]の所有の意味を表わすことが可能であ

る。

- (1) 太郎はノートパソコンを持っている。
- (2) 太郎にはノートパソコンがある。

例文(1)は、譲渡可能な[-animate]の「ノートパソコン」を[+human]の太郎が所有していることを「持つ」を用いて表わしている。例文(1)と同様、例文(2)では「ある」が「持つ」の役割を担っていると言える。

しかしながら[-animate]と捉えられる譲渡不可能な人間の身体の一部に関しては、「ある」と「持つ」とで相違点が見られる。以下の例を見られたい。

- (3) 僕が彼を初めて見た際も、頭がふたつあるようだったからね。(自：449)
- (4)? 太郎は大きい耳を持っている。⁽¹⁾

例文(3)では、人間の身体の一部である「頭」の所有を「ある」を通して表わしているが、例文(4)では、身体部分である「耳」の所有を表わすのに用いられた「持つ」が座りが悪いことがわかる。この他にも「目」、「脚」、「鼻」に関しても例文(3)と例文(4)と同様のことが言える。また、以下の例文(5)(6)を通してわかるように、人間以外の動物にもこのような傾向は見られる。

- (5) 猿には脚が2本あつて、直立歩行できる。
- (6)? 猿は脚を2本持っていて、直立歩行できる。

さらに人間の身体の一部の所有だけでなく、[-animate]の構造体の一部の所有の意味を表わす際も、「ある」と「持つ」には上述したような相違点が見られる。以下の例を見られたい。

- (7) この机には引出しが5つある。
- (8)*この机は引出しを5つ持っている。

例文(7)(8)は、譲渡不可能な[-animate]の構造体の一部の所有を表わしているが、(3)から(6)までの例文で見えてきたように、「持つ」は「ある」に比べ許容度が下がる。

このことは、元々「ある」が持っている「ある場所に存在する」という意味が影響しているためであると考えられる。つまり、具体的な所有主体の所有物という意味では、例文(1)(2)と例文(3)から例文(8)までとは同じであるが、例文(3)から例文(8)まででは、所有対象が固定されている場所⁽²⁾に付いている意味を表わすため、固定されると

いう意味を持たない例文(1)(2)とは違って、「持つ」が許容されなくなるのであろう。

以上を総合すると、所有動詞「持つ」と存在動詞「ある」は、共に[-animate]の所有対象の所有を表わすことができる。しかしながら、固定されている身体の一部、または構造体的一部分という不可分の意味を表わす際には、「ある場所における物の存在」の基本義を持つ「ある」の方が「持つ」と比べ、許容度が高いことがわかる。

2. 2 所有対象が[+animate]である場合

所有動詞「持つ」と存在動詞「ある」は、[-animate]だけでなく[+animate]の所有対象の所有を表わす際にも用いられる。しかしながら、その表わす意味用法は、[-animate]の所有対象の所有を表わす「ある」と「持つ」の異同よりも複雑な様相を呈する。

存在動詞「ある」の場合は、所有主体と所有対象との親密度が高い「家族」の構成員の場合に許容度が増す。以下の例を見られたい。

- (9) 川田は三十六歳。妻の幸子は三十歳だった。七歳と五歳の女の子がある。(世：49)
(10) 帰る家族があればロマンチックな気分なのだろうけれど、(キ：134)
(11) 妻子のある男性と深い関係となる。

例文(9)では「川田」、例文(10)では文脈から判断できる「私」、例文(11)では「男性」という所有主体がそれぞれ、「七歳と五歳の女の子」、「家族」、「妻子」を所有していることを表わしている。この場合、所有主体との親密度が重視され、家族以外の「お手伝いさん」や「友人」などは、なるほど親密度が高いと思われる家族ほど親密ではない⁽⁹⁾。したがって例文(12)(13)のように「ある」は許容されにくくなる。

(12)? 先生にはお手伝いさんが二人ありました。(寺村 1982)

(13)* 太郎には友人が2人ある。

例文(12)では、先生の家になく寝泊りしながら家事を手伝っている「お手伝いさん」であれば、親密度は増すであろう。しかしながら必要に応じて決まった時間に来て決まった時間に帰るような「お手伝いさん」であれば親密度は下がる。また例文(13)の場合も、幼馴染みで今もその付き合いが続いている場合であれば、「太郎」と「友人」の親密度は増すが、そうでない場合は親密度は下がる。

この場合、存在動詞「ある」は、「[+human](に)は[+human]がある」の形式で用いられるが、[+human]同士の親密度によって許容度に差があることがわかる。

これに対して所有動詞「持つ」の場合は、所有対象が[+human]の場合は許容されに

くくなる。以下の例を見られたい。

(14)* 太郎はお父さんを持っている。

例文(14)では、所有対象である[+human]の「お父さん」と「持つ」との共起は不可能である。しかしながら、所有対象の[+human]に修飾語句を前接すると許容度は高くなる。以下の例を見られたい。

(14)' 太郎は立派なお父さんを持っている。

例文(14)'は、例文(14)の所有対象の「お父さん」に「立派な」という修飾語句を付けることで、許容度が増す。この場合、例文(14)'が許容される理由として、修飾語句が付くことで、「お父さん」の所有というより、「お父さん」がある属性—ここでは「立派な」という—を持ったものとして捉えられているためであると考えられる。

このような現象は、存在動詞「ある」と所有動詞「持つ」が共に所有対象として[+animate]の動物を取る場合にも見られる。以下の例を見られたい。

(15)* 太郎には犬がある。

(16)* 山田には馬がある。

(17)? 太郎は鯉を持っている。

(18)? 山田は馬を持っている。

例文(15)(16)は、存在動詞「ある」が[+animate]の所有対象の「犬」「馬」と共起する場合で、座りの悪い文である。例文(17)(18)の場合も、「鯉」「馬」という[+animate]の所有対象と「持つ」が共起しているため座りの悪い文になるのである。しかしながら、これらの文に修飾語句を付けるとその許容度は増す。以下の例を見られたい。

(15)'? 太郎には警察犬がある。

(16)'? 山田さんには競馬馬がある。

(17)' 太郎は錦鯉を持っている。

(18)' 山田さんは競馬馬を持っている。

例文(15)(16)と例文(17)(18)の所有対象に修飾語句を付けた例文(15)')(16)')(17)')(18)'は、修飾語句を付けていない例文(15)(16)(17)(18)よりは許容度が増す。これは例文(14)と(14)'の間に見られるように所有対象の属性がクローズアップされ、その属性に重点が置かれているためであると考えられる。言い換えれば、所有動詞の「持つ」には「意

志を伴って所有する」という意味が含まれているので、所有の動機付けとして修飾語句が付いたものと共起しやすくなると考えることができると思われる。

以上見てきたように、所有を表わす「持つ」のこのような性質は、本動詞「ある」の「所有」用法と類似しているが、本動詞「ある」の用法である「所有」用法の場合は、所有対象にできる[+animate]の所有対象が限られているため、「持つ」が持つ用法がそのまま「ある」に適用できるとは限らない。

「ある」の「所有」用法は、所有対象を指す具体的な人物名すなわち固有名詞が挿入されると座りの悪い文になる。以下の例文(19)(20)を見られたい。

(19) 彼氏あり／彼女あり

(20) * 太郎あり／* 亜紀子あり

例文(19)は、彼氏または彼女がいるかいないかを示す表現である。書き言葉だけでなく、話し言葉でもよく用いられる表現で、「彼氏」「彼女」の存在の有無を表わす。しかしながら、この場合「彼氏」「彼女」の部分の固有名詞に換えると、例文(20)のように非文になる。このことは「所有」の意味を有する「持つ」においても言えることである⁽⁴⁾。以下の例を見られたい。

(21) 山田さんは立派な親を持っている。

(21)' * 山田さんは立派な親である三郎を持っている。

例文(21)'では、山田さんの親である「三郎」という固有名詞は、「持つ」との共起が許されない。これは、例文(19)の下線部の「彼氏」「彼女」を、例文(20)のように「太郎」「亜紀子」のような固有名詞に置き換えると座りのよくない文になってしまうのと類似している。

つまり[+animate]の所有対象が「ある」と共起する際には、属性を表わす修飾語句が付くことで、その属性に重点が置かれ、[+animate] はもはや[+animate]でなくなるのである。そのため、具体的な固有名詞が現れると座りのよくない文になってしまうのである。

以上のように、日本語の所有動詞「持つ」と存在動詞「ある」は、互いに深い連関を持ちつつ、「[+human]には[+animate]がある」形式と「[+human]は[+animate]を持つ」形式の場合は、前者の[+animate]には親密度の高い「家族」が用いられ、後者の[+animate]の場合は、修飾語句が付いた[+animate]が来るという特徴があり、殊に「持つ」の場合は、「意志を伴って所有する」という意味が含まれているので、所有の動機付けとして修飾語句が付いたものと共起しやすくなるという特徴を有することがわかる。また[+animate]の所有対象は、固有名詞で示されると非文になることは「ある」

にも「持つ」にも見られるが、このことは、固有名詞が示されると場所における存在の意味が増すためであると考えられる。

3. 「있다/issta/」と「가지다/kacida/」

3. 1 所有対象が[-animate]である場合

韓国語の所有動詞「가지다/kacita/」も、基本的には[-animate]の所有対象の所有の意味を表わす。また存在動詞「있다/issta/」も「가지다/kacita/」とほぼ同じような意味を持つ。以下の例を見られたい。

(22) 철이에게는 상속권/컴퓨터이가 있다.

/cheli-eykeynun sangsokkwuen/khemphyuthe-i/ka issta./

(チョリには相続権/パソコンがある。)

(23) 철이는 상속권/컴퓨터을를 가지고 있다.

/cheli-nun sangsokkwuen/khemphyuthe-ul/lul kaciko issta./

(チョリは相続権/パソコンを持っている。)

例文(22)(23)からもわかるように、「있다/issta/」も「가지다/kacita/」も[-animate]を所有対象として用いられるが、この場合の[-animate]の所有対象は譲渡可能のものである。譲渡不可能の所有対象を所有する場合は、「있다/issta/」と「가지다/kacita/」の間に差が生じる。以下の例を見られたい。

(24) 이 책상에는 서랍이 다섯 개 있다.

/i chayksang-eynun selap-i tases kay issta./

(この机には引出しが5つある。)

(25)* 이 책상은 서랍을 다섯 개 가지고 있다.

/i chayksang-un selap-ul tases kay kaciko issta./

* (この机は引出しを5つ持っている。)

(26) 이 원숭이에게는 다리가 두 개 있다.

/i wenswungi-eykeynun tali-ka twukay issta./

(猿には脚が2本ある。)

(27) 이 원숭이는 다리를 두 개 가지고 있다.

/i wenswungi-nun tali-lul twukay kaciko issta./

? (猿は脚を2本持っている。)

譲渡不可能の所有対象の所有を「있다/issta/」で表わしている例文(24)(26)は、自然な

文になるのに対して、譲渡不可能の所有対象の所有を「가지다/kacita/」で表わしている例文(25)では、不自然な文になる。これは日本語の「ある」と「持つ」にも見られていることであるが、譲渡不可能の所有を表わす例文(27)が許容されるのに対して、これに対応する日本語の「持つ」は許容度が落ちる。このことは日本語と韓国語の所有動詞の「持つ」と「가지다/kacita/」に、多かれ少なかれその使用に相違点があることを示している。このような違いは、所有対象が[+animate]である場合に明確に現われる。

3. 2 所有対象が[+animate]である場合

所有対象が[-animate]の場合、「있다/issta/」と「가지다/kacita/」の間には、譲渡の可否によって違いがあることを述べた。この所有対象が[+animate]の場合は、「있다/issta/」と「가지다/kacita/」の間には、所有対象が「動物」であるか「人間」であるかによって相違点が見られる。まず、所有対象が「動物」である場合について見てみよう。以下の例を見られたい。

(28) 철이에게는 강아지가 있다.

/cheli·eykeynun kangaci·ka issta./

(チョリには子犬がある。)

(29) 철이는 강아지를 가지고 있다.

/cheli·nun kangaci·lul kaciko issta./

? (チョリは子犬を持っている。)⁽⁵⁾

例文(28)と例文(29)は、[+animate]の所有対象である動物の「강아지/kangaci/(子犬)」の所有を表わすのに「있다/issta/」と「가지다/kacita/」という動詞をそれぞれ用いているが、何れの例文も自然な文である。日本語のような修飾語句の付加による許容度の変化はない。これに対して、以下の例文からもわかるように所有対象が「人間」の場合は、「있다/issta/」と「가지다/kacita/」には違いが見られる。この違いは、日本語の所有表現との大きな相違点でもある。以下の例を見られたい。

(30) 철이에게는 누나가 있다.

/cheli·eykeynun nwuna·ka issta./

(チョリにはお姉さんがある。)

(31)* 철이는 누나를 가지고 있다.

/cheli·nun nwuna·lul kaciko issta./

? (チョリはお姉さんを持っている。)

例文(30)の場合は、[+animate]の所有対象である「누나/nwuna/(お姉さん)」の所有を表わすのに「있다/issta/」が用いられており、自然な文になっているのに対して、例文(31)では、[+animate]の所有対象である「누나/nwuna/(お姉さん)」の所有を「가지다/kacita/」で表わしているため不適格な文になっている。日本語の「持つ」でも述べた通り、所有動詞の場合、所有主体の意志が根底にあって、その意志によって所有対象を所有するという意味を表わすので、[+animate]殊に[+human]の所有対象とは共起しにくくなるのではないかと考えられる。しかしながら、日本語の場合は、修飾語句等を付加することで、文の許容度が増すのに対して、韓国語の場合は修飾語句を付けても文の容認度には影響しない。以下の例を見られたい。

(31)* 철이는 상냥한 누나를 가지고 있다.

/cheli-nun sangnyanghan nwuna·lul kaciko issta./

(チョリは優しいお姉さんを持っている。)

例文(31)'は、例文(30)に修飾語句の「상냥한/sangnyanghan/(優しい)」を付けたものである。修飾語句を付けることでその日本語訳の容認度が高くなるのに対して、韓国語の場合は、その許容度に変化がないことがわかる。このことは、上述したように「가지다/kacita/」の場合、所有主体の意志が影響しているためであると思われる。

4. おわりに

以上、日本語と韓国語の所有表現の中で、「持つ」「ある」と「가지다/kacita/」「있다/issta/」をそれぞれ個別的に考察し、その考察の結果をもとにさらに日韓両言語を比較対照した。

その結果、日本語の場合、[-animate]の所有対象の所有を表わす際、譲渡不可能な所有対象の所有は「持つ」より「ある」の方が許容度が増すことがわかった。このような傾向は韓国語でも見られ、譲渡不可能な所有対象の所有では、「持つ」に対応する「가지다/kacita/」よりも「ある」に対応する「있다/issta/」の方が許容度が高かった。

また[+animate]の所有対象の所有を表わす際、日本語の「持つ」は修飾語句を伴うことでその許容度が増すが、その理由として、「持つ」には「意志を伴って所有する」という意味が含まれているので、所有の動機付けとして修飾語句が付いたものと共起しやすくなることを述べた。このようなことは、主に所有主体と所有対象との親密度が重んじられる「ある」にも言えることである。

これに対して、韓国語の「가지다/kacita/」と「있다/issta/」は、[+animate]の所有対象の所有を表わす際、修飾語句の挿入の如何に関係なく、もっぱら「있다/issta/」のみが許容され、殊に[+human]になると「가지다/kacita/」を用いることはできなく

なる。このことは、 [+animate]の所有対象の所有を表わす際、日本語の「持つ」と韓国語の「가지다/kacita/」との間には、 [+human]の所有対象と共起するかしないかの違いがあることを意味する。日本語の場合、修飾語句の付加による許容度の変化はあるにせよ、意志を持って所有できる対象に日韓両言語の間に違いが見られたことは興味深い。

今後、本稿では取り上げていない所有の意味を表わす「漢語名詞+있다/issta/(ある)」形式と「固有語+있다/issta/(ある)」⁽⁶⁾形式について見ていくことで、日韓両言語の所有表現の意味用法をより明確にしていきたい。

以下に本稿の考察の結果を表にまとめて示す。

〈表 1〉 日韓両言語の所有表現の比較表⁽⁷⁾

言語別動詞 animacy		日本語		韓国語	
		持つ	ある	가지다/kacita/	있다/issta/
[+animate]	人間	△	△	×	○
	動物	△	△	○	○
[-animate]	譲渡可能	○	○	○	○
	譲渡不可能	△	○	△	○

注

- (1) しかしながら、人間一般のことを言う場合の「人間は目を2つ持っている」のような例文だとその許容度は増す。
- (2) ここでは[+animate]の「人間・動物」と[-animate]の「机」を指す。
- (3) これに関連して、新居田(1999)は、文学作品のなかで用いられる「ある」「いる」「持つ」を調べ、日本人の意識としては、婚姻関係のある妻や夫や、あるいは子供に対しては「所有」の意識が強くなり、親や兄弟姉妹に比べて「持つ」の表現形式が多くなると述べているが、これも親密度の高低と関わることであると考える。
- (4) 「持つ」の場合、子持ちのような用例がある。この場合、修飾語句が付いてないが、[+animate]の所有対象との共起が可能であり、また、*花子持ちのように所有対象が具体化されない点は「ある」の用法に似ていると言える。
- (5) 本稿では、動物の所有の場合、「ある」と「持つ」そして「있다/issta/」と「가지다/kacita/」の異同現象及び日韓両言語間の異同現象に重点をおいて述べている。しかしながら「犬を飼っている」という表現からもわかるように、少なくとも動物の所有の場合はコロケーション(Collocation)の問題が文の許容度と深く

関わっている可能性も否定できない。これに関しては、今後の課題としたい。

- (6) 「漢語名詞＋있다/issta/(ある)」の例には、「인기있다/inkiiissta/(人気がある)」「흥미있다/hungmiissta/(興味がある)」「관록있다/kwanlokissta/(貫禄がある)」などがある。また「固有語＋있다/issta/(ある)」の例には、「재미있다/caymiissta/(面白い)」がある。
- (7) ○印は該当する動詞と[±animate]の間に連関が認められることを，×印は該当する動詞と[±animate]の間に連関が認められないことを，△印は修飾語句などの挿入によって制限的にその連関が認められることを表わす。また日本語と韓国語とでその使用の異なる箇所には網掛けを施しておいた。

主要参考文献

- 金水 敏(1984)「「いる」「おる」「ある」－存在表現の歴史と方言－」『ユリイカ 総特集 日本語』11 臨時増刊号 青土社, pp.284-293
- 高橋太郎・屋久茂子(1984)「「～がある」の用法－(あわせて)「人がある」「人がいる」の違い－」『国立国語研究所報告 79 研究報告集』5 国立国語研究所, pp.1-42
- 角田太作(1991)『世界の言語と日本語：言語類型論から見た日本語』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 南 得鉉(2000)「存在文の意味範囲－「有情物が＋ある」を中心に－」『ニダバ』(西日本言語学会)第 29 号, pp.98-107
- 南 得鉉(2001)「日韓両言語における存在動詞の尊敬形式に関する一考察」『ニダバ』(西日本言語学会)第 30 号, pp.134-143
- 新居田純野(1999)「人の所有を表す表現について－「人がある／いる」と「人をもつ」の両形式の分析から」『言語学と日本語教育』くろしお出版, pp.245-258
- 朴 良圭(1975)「所有와 所在」『國語學』(國語學會)3 輯, pp.93-117
- 배 주채(2000)「「있다」와「계시다」의 품사에 대한 사전 기술」『聖心語文論集』(구가톨릭대학교 國語國文學科)22, pp.223-246
- 서 정수(1991)「풀이말「있/계시(다)」에 관하여」『국어의 이해와 인식 -갈음 김석득 교수 회갑기념논문집』한국문화사, pp.25-37
- 신 선경(1998)『「있다」의 어휘의미와 통사구조 연구』서울대학교대학원 박사논문

用例出典 (() 内は題目の略称)

- 赤川次郎『世界は破滅を待っている』青樹社 1994 (世)
- 大江健三郎「自動人形の悪夢」『大江健三郎小説 7』新潮社 1996 (自)
- 吉本ばなな『キッチン』福武文庫 1991 (キ)